

KARUIZAWA Town's  
100  
Anniversary



軽井沢町町制施行100周年記念誌  
2023年10月発行

発 行：軽井沢町  
制 作：TOPPAN株式会社

KARUIZAWA Town's

100  
Anniversary

# 次の100年も 誇りたい



100th anniversary

軽井沢町町制施行100周年記念誌





ごあいさつ

# 1923 ~ 2023

東長倉村が町制をしき  
「軽井沢町」と改称



KARUIZAWA Town's  
100  
Anniversary

軽井沢町長 土屋 三千夫

軽井沢町議会議員 遠山 隆雄



**土屋 三千夫** (つちや みちお)  
軽井沢町出身。大学卒業後、民間企業の代表取締役等を経験し、令和5年2月に第30代軽井沢町長に就任(1期目)。軽井沢文化協会前副会長。

軽井沢町は、大正12年8月1日に現在の町制がスタートし、令和5年8月1日に100周年の記念すべき日を迎えました。

当町は、浅間山から南東に広がる緩やかな南斜面に位置する高原の町です。

明治の始めまでは、中山道の三つの宿場町として栄えており、明治19年にはカナダ生まれの英国聖公会宣教師アレキサンダー・クロフト・ショーが初めてこの地を訪れ、清涼なる風土に感動し「屋根のない病院」と称えました。

そこから、国際保健休養地として歩み始め、約140年が経ちました。その間、昭和26年に公布された「軽井沢国際親善文化観光都市建設法」をはじめ、昭和33年に制定した「軽井沢町の善良なる風俗維持に関する条例」や昭和47年に制定した「軽井沢町の自然保護対策要綱」により、世界に誇れる清らかな環境と伝統ある良き風俗を守り育み、自然環境の保全と保健休養地としての土地利用を図りながらこの町が発展してこられたのは、多くの先人や諸先輩方の努力と研鑽<sup>けんさん</sup>の賜物と、改めて深く敬意を表します。

これからも100年の伝統と独特な文化を生かしながら、持続可能な町として軽井沢町を発展させなければならないと考えています。

軽井沢町の魅力を、豊かな自然環境に求める方が多いと思いますが、今後、努力によりその魅力をさらに磨いていけば、訪問したい、また、住みたいと思う方の増加も予想され、開発と自然環境とのバランスを考えたさらなる対応が求められます。

一方で、多様な人材と文化の混ざり合いはこの町の魅力でもあり、様々な分野で新しい価値を生み出す動きが感じられ、今後の発展に向けた期待が高まります。

多様化が進むということは価値観の違う人が増えることでもあるため、共通の目標として「誰もが住みやすい町、住み続けたい町、誰ひとり取り残さない町」を目指し、住民、議会、行政が一体となったまちづくりを進めていきます。

町制施行100周年にあたり、記念誌が発刊されますことに、心からお祝いを申し上げます。

軽井沢町は、大正12年8月に町制が施行され、今日までの間、西長倉村・御代田町茂沢地区を合併し、現在に至っております。

これまでの100年間は、社会・経済状況全般にわたって、大きな変化の時代でありました。昭和初期の大恐慌、大戦と激動の時代を経て、昭和から平成、令和へと時代が変わりゆく中で、昭和26年に「軽井沢国際親善文化観光都市建設法」が施行され、国際親善・文化交流・観光振興など、町の目指す方向が定まりました。昭和33年には「軽井沢町の善良なる風俗<sup>じゅうふ</sup>維持に関する条例」が制定され、この条例により、町の風俗を醇化<sup>じゅんか</sup>し、国際親善文化観光都市としての良い伝統が維持されております。

さらに、昭和47年「軽井沢町の自然保護対策要綱」の制定により自然保護対策の基準が定められ、軽井沢町のすぐれた自然が保持されているところであります。

また、昭和48年には、町制施行50周年を記念して、軽井沢町民憲章が制定され、町民一人ひとりが5つの条文を心にして、国際親善文化観光都市の建設を目指しております。

爾来<sup>じらい</sup>、避暑地軽井沢から名実ともに、保健休養地軽井沢として、着実に発展の道を歩んでおります。

これからも、幾多の先人が培ってきた軽井沢独自の香り高い文化と天与の自然を残しつつ、これからの百年へ向けた新しい軽井沢町の礎を築いて、次の世代へと引き継いで行くことが、今の私たちに課せられた使命と考えております。

地方分権が進展している現在、町民の代表として二元代表制の一翼を担う議会の役割がますます重要になっていることを踏まえ、私たち軽井沢町議会は、次の百年も軽井沢町が活力ある街として輝き続けるよう、議決機関としての重責を果たしてまいり所存であります。

結びに、町制施行100周年を契機に、軽井沢町のさらなる発展を祈念いたしまして、発刊によせる言葉とします。



**遠山 隆雄** (とやま たかお)  
軽井沢町出身。高校卒業後、軽井沢町に奉職し、建設課長等を歴任。平成27年4月に軽井沢町議会議員一般選挙で初当選(3期目)。第38代軽井沢町議会議員。





# 町民の声を町政に生かす16人の町議会議員

## —— 軽井沢町議会 ——



軽井沢町議会は、選挙によって選ばれた男性11人、女性5人、計16人の議員によって構成されています。各議員は、議会運営委員会、4つの常任委員会、2つの特別委員会に所属し、委員会での議論を通じて、町政をチェックし、町民の声を町政に反映させています。

平成23年(2011)1月からは、効率的に議会を運営し、その機能を高めるため、会期を1年間とする通年議会を実施し、さらに同年4月からは、町政の主役である町民の負託に応えるための「議会基本条例」を制定して積極的な活動を続けています。

今後も、多様化する住民ニーズの変化を的確に判断し、また会話と議論を重ね、より身近で開かれた議会を目指し、全力で取り組んでまいります。

### 軽井沢町議会議員名簿

|     |       |      |      |       |        |      |
|-----|-------|------|------|-------|--------|------|
| 議長  | とおやま  | たか お |      |       |        |      |
|     | 遠山    | 隆雄   |      |       |        |      |
| 副議長 | かわしま  | さゆり  |      |       |        |      |
|     | 川島    |      |      |       |        |      |
| 議員  | かなやま  | のぞみ  | こばやし | てん ま  | こ やま   | ひろつぐ |
|     | 金山    |      | 小林   | 天馬    | 小山     | 裕嗣   |
|     | ましま   | さと こ | ふくもと | おさむ   | なかざわ   | ひつ お |
|     | 眞島    | 聡子   | 福本   | 修     | 中澤     | 睦夫   |
|     | おしがね  | よう じ | てら だ | わ か こ | と ね がわ | たいぞう |
|     | 押金    | 洋仁   | 寺田   | 和佳子   | 利根川    | 泰三   |
|     | よこす か | もも こ | つち や | よし お  | さとう    | みき お |
|     | 横須賀   | 桃子   | 土屋   | 好生    | 佐藤     | 幹夫   |
|     | いちむら  | まもる  | さとう  | としあき  |        |      |
|     | 市村    | 守    | 佐藤   | 敏明    |        |      |

### 委員会

議会運営委員会(5名)

常任委員会

総務常任委員会(8名) 社会常任委員会(8名)

予算決算常任委員会(15名) 広報広聴常任委員会(8名)

特別委員会

議会活性化特別委員会(7名)

庁舎改築周辺整備事業検討特別委員会(15名)

## 町のあゆみ

| 西暦   | 年号    | 出来事                                                                                  |
|------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 1923 | 大正12年 | 東長倉村が町制をしき、「軽井沢町」と改称(人口5,012人、890戸)                                                  |
| 1929 | 昭和4年  | 軽井沢上水道完成                                                                             |
| 1942 | 昭和17年 | 軽井沢町が西長倉村を合併(人口8,746人)                                                               |
| 1947 | 昭和22年 | 満州大日向開拓団が借宿地籍国有林に入植<br>天皇陛下が甲信地方ご巡幸、大日向開拓地をご視察                                       |
| 1950 | 昭和25年 | 国保新軽井沢診療所開設(新道つるや旅館内)<br>国保沓掛診療所開設(清原医院宅を借用)                                         |
| 1951 | 昭和26年 | 「軽井沢国際親善文化観光都市建設法」公布                                                                 |
| 1952 | 昭和27年 | 軽井沢町教育委員会発足<br>軽井沢町国民健康保険旧軽井沢診療所開設                                                   |
| 1955 | 昭和30年 | 第1回軽井沢スケート競技大会開催                                                                     |
| 1958 | 昭和33年 | 「軽井沢町の善良なる風俗維持に関する条例」制定公布                                                            |
| 1959 | 昭和34年 | 第1回国際親善パーティー開催(長野県知事、軽井沢町長共催)                                                        |
| 1963 | 昭和38年 | 国際射撃場完成(クレー・ライフル・空気銃など)<br>軽井沢町資料館開館(中学校敷地西隣)                                        |
| 1964 | 昭和39年 | 「社団法人軽井沢開発公社」設立<br>第18回オリンピック東京大会総合馬術競技大会開催(12ヵ国、48人参加)                              |
| 1968 | 昭和43年 | 第1回「若葉まつり」開催<br>町役場庁舎落成<br>ブラジル合衆国・サンパウロ州カンポス・ド・ジョルドン市と姉妹都市提携することを議決<br>第1回「紅葉まつり」開催 |
| 1969 | 昭和44年 | 第1回「氷まつり」開催                                                                          |
| 1972 | 昭和47年 | 「軽井沢町の自然保護対策要綱」制定                                                                    |
| 1973 | 昭和48年 | 第1次軽井沢町長期振興計画策定(以後10年ごとに策定)<br>町制施行50周年記念に「軽井沢町民憲章」制定                                |
| 1974 | 昭和49年 | 軽井沢病院新築移転                                                                            |
| 1975 | 昭和50年 | 軽井沢町植物園開園                                                                            |
| 1976 | 昭和51年 | 軽井沢町老人福祉センター、中央公民館開館<br>町立図書館開館                                                      |
| 1978 | 昭和53年 | 軽井沢町社会体育館落成                                                                          |
| 1980 | 昭和55年 | 旧三笠ホテルが国の重要文化財に指定<br>軽井沢町資料館新築開館(現在の歴史民俗資料館)                                         |



町制施行(1923年)



庁舎落成(1968年)



若葉まつり(ハーフマラソン・現在)



氷まつり(1969年)



旧三笠ホテル、国の重要文化財に指定(1980年)



| 西暦   | 年号    | 出来事                                                                                                                                                             |
|------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1981 | 昭和56年 | 軽井沢町上水道管理センター落成                                                                                                                                                 |
| 1982 | 昭和57年 | 軽井沢勤労者体育センター落成                                                                                                                                                  |
| 1984 | 昭和59年 | 軽井沢町防災無線網整備                                                                                                                                                     |
| 1985 | 昭和60年 | 追分宿郷土館開館<br>第1回健康祭開催                                                                                                                                            |
| 1986 | 昭和61年 | 保健休養地“軽井沢100”記念式典（皇太子同妃両殿下ご参列）<br>世界スプリントスピードスケート選手権大会開催<br>“軽井沢100”記念事業各種開催                                                                                    |
| 1990 | 平成2年  | 風越公園アリーナ落成                                                                                                                                                      |
| 1993 | 平成5年  | 町制施行70周年記念式典挙行（町花サクラソウ・町木コブシを制定）                                                                                                                                |
| 1994 | 平成6年  | 屋外多目的運動場落成                                                                                                                                                      |
| 1995 | 平成7年  | 軽井沢観光会館改築落成                                                                                                                                                     |
| 1996 | 平成8年  | スカップ軽井沢落成                                                                                                                                                       |
| 1997 | 平成9年  | 軽井沢町都市施設さわやかハット落成                                                                                                                                               |
| 1998 | 平成10年 | 第18回長野冬季オリンピック「カーリング競技」開催（風越公園アリーナ）                                                                                                                             |
| 1999 | 平成11年 | カナダ・ブリティッシュコロンビア州・ウィスラー市と<br>姉妹都市提携宣言書に調印<br>室生犀星旧居公開<br>市村記念館開館                                                                                                |
| 2000 | 平成12年 | （旧）軽井沢駅舎記念館開館<br>第1回軽井沢ショー祭開催                                                                                                                                   |
| 2001 | 平成13年 | マンション軽井沢メソッド宣言<br>風越公園400mスケートリンク完成                                                                                                                             |
| 2002 | 平成14年 | 軽井沢病院新築移転（現在の軽井沢病院）                                                                                                                                             |
| 2003 | 平成15年 | 第1回男女共同参画フォーラム開催<br>町制施行80周年記念式典挙行<br>（町鳥アカハラ・町獣ニホンリス制定、国道18号軽井沢バイパスに「軽井沢<br>グリーンライン」、国道18号に「もみじ通り」の道路愛称名を付す）<br>天皇皇后両陛下下行幸啓（13年ぶり）<br>町内循環バス試行運転<br>軽井沢国際射撃場封鎖 |
| 2005 | 平成17年 | 軽井沢大賀ホール グランドオープン<br>軽井沢まちなみメソッド宣言                                                                                                                              |
| 2006 | 平成18年 | 湯川ふるさと公園全地区供用開始                                                                                                                                                 |
| 2007 | 平成19年 | 軽井沢町保健福祉複合施設「木もれ陽の里」開設<br>「軽井沢町まちづくり基本条例」制定<br>旧スイス公使館（深山荘）購入                                                                                                   |



保健休養地“軽井沢100”記念式典（1986年）



長野オリンピック（1998年）



（旧）軽井沢駅舎記念館（2000年開館）



軽井沢病院（2002年新築移転）



軽井沢大賀ホール（2005年オープン）



木もれ陽の里（2007年開設）

| 西暦   | 年号            | 出来事                                                                                                                            |
|------|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2008 | 平成20年         | 離山公園一部使用開始                                                                                                                     |
| 2009 | 平成21年         | 風越公園アイスアリーナ リニューアルオープン（通年利用が可能となる）                                                                                             |
| 2010 | 平成22年         | 浅間ふれあい公園供用開始                                                                                                                   |
| 2011 | 平成23年         | 軽井沢町議会通年議会開始                                                                                                                   |
| 2012 | 平成24年         | 「国際特別都市建設連盟地震等災害時の相互応援に関する協定」締結<br>六本辻ラウンドアバウト社会実験開始                                                                           |
| 2013 | 平成25年         | 軽井沢風越公園カーリングホール「軽井沢アイスパーク」オープン<br>軽井沢町地域交流施設「くっかけテラス」オープン<br>町立中軽井沢図書館開館（くっかけテラス内）<br>町制施行90周年記念式典挙行（シンボルマーク制定）<br>町の人口が2万人となる |
| 2014 | 平成26年         | スカップ軽井沢リニューアルオープン<br>風越公園総合体育館オープン<br>軽井沢グランドデザイン発表                                                                            |
| 2015 | 平成27年         | 旧スイス公使館（深山荘）を町有形文化財に指定                                                                                                         |
| 2016 | 平成28年         | 軽井沢中学校新校舎完成<br>農産物等直売施設「軽井沢発地市庭」オープン<br>軽井沢22世紀風土フォーラム事務局を設置<br>旧近衛文麿別荘（市村記念館）を町有形文化財に指定<br>G7 長野県・軽井沢交通大臣会合開催                 |
| 2017 | 平成29年         | 八田別荘を町有形文化財に指定                                                                                                                 |
| 2018 | 平成30年         | 風越鷲六半自然草原（植物園自然園）を町天然記念物に指定<br>三面馬頭観世音菩薩を町有形民俗文化財に指定<br>聖パウロカトリック教会を町有形文化財に指定<br>町道借宿バイパス線開通                                   |
| 2019 | 平成31年<br>令和元年 | 軽井沢町・ウィスラー市姉妹都市提携20周年記念友好の碑設置<br>G20持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会<br>合開催                                                    |
| 2020 | 令和2年          | 軽井沢町「CO <sub>2</sub> 排出実質ゼロ」宣言<br>黄壁布屋、鳶屋、塩沢の郷倉、長倉神社本殿、茂沢薬師堂、杉瓜観音堂を町<br>有形文化財に指定                                               |
| 2021 | 令和3年          | 東京2020オリンピック聖火リレー開催<br>「軽井沢町環境基本条例」制定                                                                                          |
| 2022 | 令和4年          | 複合施設「ほっち交流館」開館（南地区児童館と発地公民館を併設）                                                                                                |
| 2023 | 令和5年          | G7長野県軽井沢外務大臣会合開催<br>町制施行100周年<br>上皇上皇后両陛下下行幸啓（4年ぶり）<br>追分節・熊野皇大神社太々神楽を町無形民俗文化財に指定<br>軽井沢夏の家（旧アントニン・レーモンド軽井沢別邸）が国の重要文化財に指定      |



軽井沢中学校新校舎（2016年完成）



発地市庭（2016年オープン）



G7長野県・軽井沢交通大臣会合（2016年）



借宿バイパス（2018年開通）



G20持続可能な成長のためのエネルギー転換  
と地球環境に関する関係閣僚会合（2019年）



G7長野県軽井沢外務大臣会合（2023年）



# 町制施行100周年記念式典



町制施行100周年を記念し、令和5年8月5日(土)に町制施行記念式典が開催されました。

式典には、表彰を受けられる方や、町内関係者が一堂に会し、国会議員をはじめ、県知事、県議会議員、近隣市町村長などの来賓をお招きし、総勢223名にご出席いただきました。

式典では今から50年前に制定された「軽井沢町民憲章」を参加者全員で唱和、軽井沢の未来を担う町内3公立小学校6年生による合唱、俳優の渡辺謙氏がナレーションを務めた100周年を振り返る映像の上映などを行いました。

また、記念講演として建築家の團紀彦<sup>だんこのりひこ</sup>氏に今後のまちづくりについてご講演いただきました。

## 町長式辞



土屋三千夫町長

## 議長挨拶



遠山隆雄議長

## 来賓お祝いの言葉

- ◆ 衆議院議員 文部科学副大臣 井出庸生<sup>いでようせい</sup> 様
- ◆ 長野県知事 代理 佐久地域振興局長 原啓明<sup>はらひろあき</sup> 様
- ◆ 長野県議会議員 小山仁志<sup>こやまひとし</sup> 様
- ◆ 姉妹都市 カナダ ウィスラー市長代理 市議会議員 Jeff Murl<sup>ジェフ マール</sup> 様



井出庸生 氏



原啓明 氏



小山仁志 氏



Jeff Murl 氏

## 町内小学生による合唱



町内の3つの公立小学校6年生の児童がこの日のために合唱練習を重ね、合唱曲「はじまりの歌」を発表しました。

合唱前の児童代表のあいさつでは、「最初は緊張して上手く歌うことができませんでしたが、一緒に歌うを通して、緊張がほぐれ、ひとつになっていくことができました。この曲の『100年前の子どもたちもこの場所で夢を見た』という歌詞は、100年前のこの場所にも子どもたちが

いて、当時の子どもたちが想い描いた夢や未来の先に今の私たちが歩いて、それと同時に、私たちがこれから描く夢や未来のバトンを次の子どもたちに託すため、これからの軽井沢町のために何ができるのかを考え、行動していきたいと思います。」という強いメッセージが込められ、子どもたちの素晴らしい合唱は、会場を感動で包みこみ、これからの軽井沢町の明るい未来を想像させてくれました。

## 表彰式



表彰式の様子



感謝の言葉を述べる藤巻前町長

町表彰条例に基づき、町行政の振興に顕著な功績があった方々を表彰するため、18名の方に表彰状及び感謝状が贈呈されました。また、受賞された方々を代表して前町長の藤巻進<sup>ふじまきすすむ</sup>氏より、感謝のお言葉をいただきました。

## 記念講演



團紀彦氏



記念式典の後半では、軽井沢町景観アドバイザー“マスターアーキテクト”である建築家、團紀彦氏による記念講演が行われました。

「未来に向けた軽井沢の景観と街づくりについて」と題し、軽井沢の歴史を辿り、人々が築いた文化と自然やまちなみ、景観づくりについてお話いただきました。



# 町制施行 100周年事業

## 記念映像

こちらから動画本編がご覧いただけます →



## 「礎の100年から次の100年へ」

### 自然篇「恵みの自然環境」

軽井沢の象徴と言われる「豊かな自然」は実は最初からこの地に根付いていたものではなく、長い年月をかけて住民たちの手により育まれたものでした。

江戸時代の書物には、湿原が広がる不毛の地であるというような記述があります。この原野とも言える状態から軽井沢が今の緑あふれる町となったきっかけについて取り上げました。明治時代の実業家、雨宮敬次郎はこの地にカラマツの木を700万本植えたことで、今の軽井沢の景観をつくるきっかけとなった人物であり、この植樹活動は彼の死後、住民たちの手に引き継がれ、長い年月と労力をかけ、軽井沢は緑あふれるまちとなりました。

町では、こうした自然環境を守り、国際保健休養地としてのまちづくりを進めるため、およそ50年前である昭和47年に「軽井沢町の自然保護対策要綱」を制定しました。この要綱は軽井沢独自の文化であり、自然環境が町に関わるすべての人々の共通財産であるという理念の表れでもあります。

SDGsや地球環境への関心の高まりは、自然環境と人のあり方について見直していこうという動きにつながっています。近年の軽井沢町の課題である“自然環境の保全と開発”のバランスをとるために、「個人による自然体験」、「科学的・歴史的に捉えること」、「コミュニティ内での対話」の3つの視点により、自然との付き合い方を考え、自然環境を生かした地域づくりを目指します。



### 国際篇「町に息づく国際文化」

近年行われた3つの大きな国際会議により、軽井沢は国際的な知名度をさらに高めました。また、夏季・冬季の両方のオリンピックが開催された世界でも数少ない自治体であり、古くから国際的な町として注目されてきました。

軽井沢にはそういった国際文化が昔から根付いており、そのきっかけをつくったのが、明治19年にこの地を訪れた宣教師アレキサンダー・クロフト・ショーでした。彼が軽井沢の冷涼な気候と美しい自然を気に入り、その素晴らしさを友人たちに紹介したことで、その後多くの外国人が軽井沢を訪れることとなります。この出来事がきっかけとなり寒村の1つに過ぎなかった軽井沢が日本を代表する別荘地として発展していくこととなります。軽井沢を訪れた外国人は、軽井沢の住民と交流しながらテニスやゴルフ、西洋家具、パンなどの異国の文化を伝え、自然と軽井沢にはおもてなしの文化が根付きました。また、近年注目されている軽井沢産の野菜や西洋料理などの食文化も外国人に

よってもたらされました。現在では軽井沢に食を目当てで来られる方も多く、世界に食文化を発信する機会も増えていきます。

先人たちが築いてきたこのおもてなし文化に触れながら、自然の中で安らいだり、文化的施設を巡ったりするなどして長期的な滞在によりリラックスしていただけるよう、保養文化都市としての原点を守りながら、滞在型の新しい価値も創造していきます。



このまちを愛し、このまちの未来を考えていた方々の努力で発展してきた軽井沢町。

これまで築かれてきた文化的遺伝子を引き継ぎながら、持続的発展のための新しい価値も生み出せるようにと、軽井沢町が未来へと託すメッセージとして三篇に分けた映像を制作しました。

### 文学篇「文学散歩」



軽井沢には多くの作家が集い、独自の文学風土を培ってきましたが、なぜ、多くの文豪たちが軽井沢で執筆活動を行ったのか、その理由にせまりました。

その理由の1つとして、これは作家に限ったことではありませんが、軽井沢には著名な人物を特別扱いしない「本来の人間関係」があるとされています。人間関係の煩わしさととられず、肩書によらない絶妙な距離感は「軽井沢マジック」と呼ばれることもあり、創作活動に適した環境にもなっています。

また、在住作家の一人である直木賞作家の小池真理子さんは、言葉を駆使しながら作品世界を作り出していく人々にとって、都会暮らしをしていたら書けなかった表現が軽



井沢に住むことによって生み出されたといいます。例えば「周りに静寂が満ちた時、窓を開けてみると雪が降っている」などの表現は軽井沢での体験の中で生まれました。そういった創作環境は自然がなくなることによって失われてしまいます。時代が変わって人の求めることが変わってくれば、新たな商業施設などができることは当たり前だが、商業施設と住居区域は分け、創作に励むことができる空間を守ってほしい、何百人もの作家たちがこの地で作品を作り上げてきたという空気感を現代的で人工的なものにしな

いでほしいという想いを語り、自然環境の保全について文学界の視点から意見を述べていただきました。

## 文学散歩

書籍名：『新編 軽井沢文学散歩』軽井沢町教育委員会 編集・発行  
(令和5年8月1日発刊)

昭和43年(1968)初版『軽井沢文学散歩』を、手に取りやすく読みやすい本へとリニューアルして発行しました。

万葉の時代から現代まで、数多くの文学が生まれてきた軽井沢。

本書を案内役として携え、「みる・よむ・めぐる」楽しさを味わいながら軽井沢を散歩していただけます。





## 姉妹都市ウィスラー市ご紹介



1999年3月 調印式の様子(カナダ・ブリティッシュコロンビア州ウィスラー市にて)



2019年3月 相互交流事業(ホームステイ) ウィスラー・プラッコムでのスキーのようす

平成11年(1999)3月3日、カナダ西部ブリティッシュコロンビア州のウィスラー山頂にあるラウンドハウスで、軽井沢町とウィスラー市の姉妹都市提携の調印式が行われました。

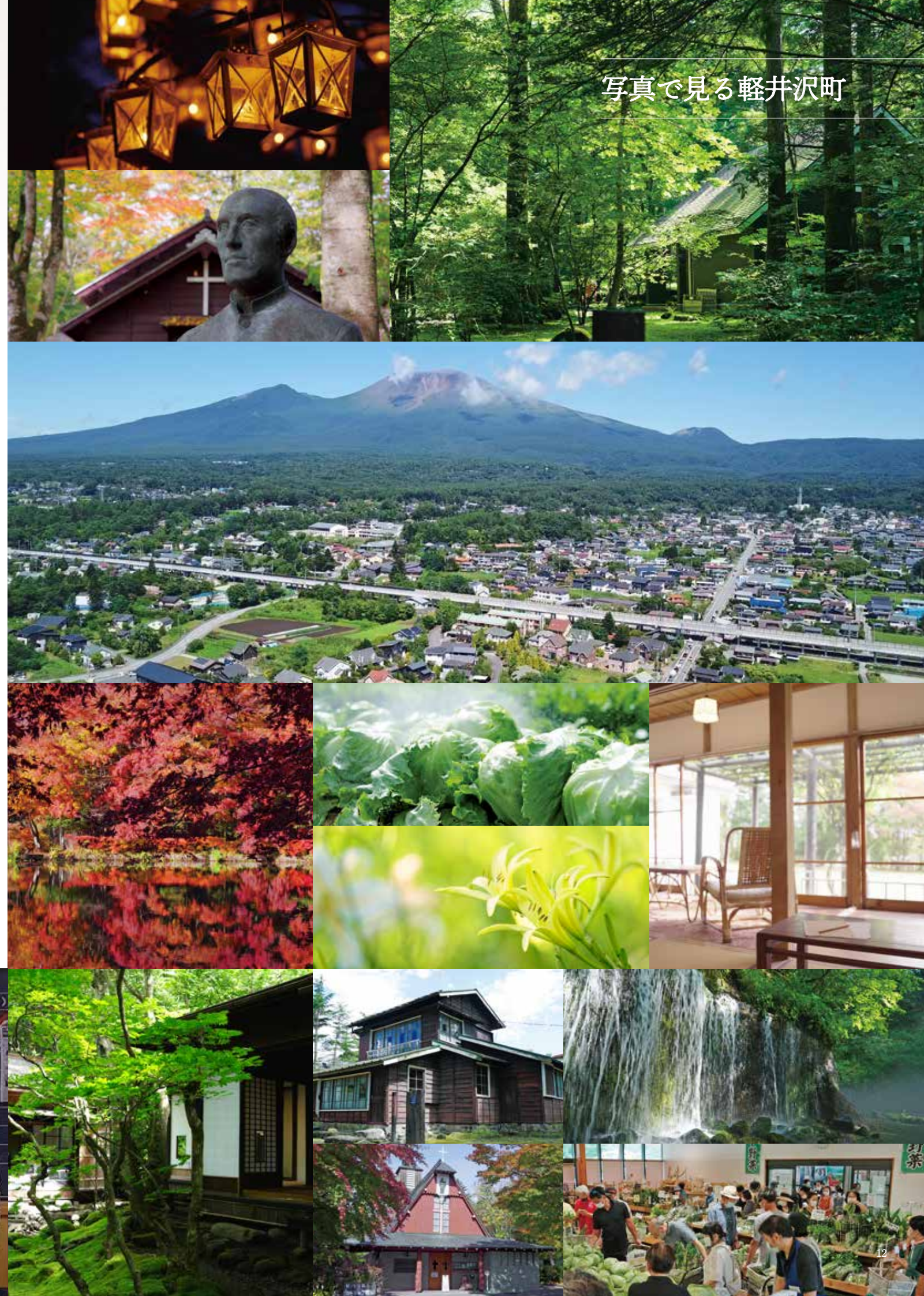
軽井沢町とカナダの結びつきは、カナダ生まれの英国聖公会宣教師アレキサンダー・クロフト・ショーが明治19年(1886)、布教の途中で立ち寄った軽井沢のさわやかな気候と美しい自然に感嘆し、軽井沢を避暑地として国の内外に広く紹介して現在の軽井沢の保健休養地としての礎を築いたのが始まりでした。

近年になり、長野冬季オリンピック(平成10年)においてカーリング競技が初めて正式種目として軽井沢町で開催され、カーリングが盛んなカナダとの交流がますます深まりました。このオリンピックにおいてカナダカーリングチームは、女子が金、男子が銀メダルを獲得する快挙を成し遂げ、カナダにとって軽井沢町はたいへん思い出深い地となりました。

これを記念して平成10年(1998)、レナード・J・エドワーズ駐日大使より、カナダのシンボルであるサトウカエデの苗木が寄贈され、大使ご夫妻ご臨席のもとに植樹式が行われ、カーリングを縁にカナダとの絆が強固なものとなりました。

この2つの大きな結びつきが背景となり、軽井沢町は同じリゾート地として知られるウィスラー市と姉妹都市提携を結びました。

## 写真で見る軽井沢町



2017年10月 姉妹都市相互生徒派遣





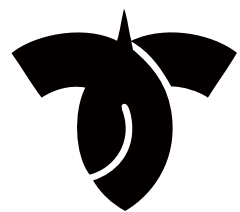
## 軽井沢町民憲章 (昭和48年8月1日制定)

わたくしたちは、雄大な浅間山にいだかれた高原の町軽井沢の町民です。

わたくしたちは、国際親善文化観光都市の住民にふさわしい世界的視野と未来への展望

に立って、ここに町民憲章を制定します。

- 一 世界に誇る清らかな環境と風俗を守りつづけましょう
- 一 すべての来訪者に心あたたかく接しましょう
- 一 かおり高い伝統と文化を育てあげましょう
- 一 緑ゆたかな高原の自然を愛しまりましょう
- 一 明るい家庭と伸びゆく町を築きあげましょう



町章

かるいざわの「か」を意味し、平和の鳥が飛び立つ姿を表している。昭和35年(1960)制定。



町旗

軽井沢の自然を色に置き換え、秋の紅葉の赤色と浅間山の火山の色を基本に、黄色に近い赤色、オレンジ色を主色にして、水の濃いブルー、空気の淡いブルーで構成し、生地の白色を色の接触する部分に使用します。



町の花 サクラソウ / 町の木 コブシ

町制施行70周年を記念し、平成5年(1993)制定。



町の鳥 アカハラ / 町の獣 ニホンリス

町制施行80周年を記念し、平成15年(2003)制定。



＊karuizawa＊

軽井沢町シンボルマーク

町制施行90周年を記念し、平成25年(2013)制定。



軽井沢町キャラクター

RUIZA (ルイザ) ちゃん

軽井沢町の豊かな山々を基調とした明るく、元気なキャラクター。頭には浅間山と軽井沢町の町花「サクラソウ」、体には清流と風をイメージ(腹巻き?)しました。

## Honorary Citizens

### 名誉町民

昭和32年(1957)12月、軽井沢町名誉町民条例が制定され、この町に深い縁故があり、広く社会の発展に貢献して町民の尊敬を集めている人に、名誉町民の称号を贈り、その功績を称えています。今日までに8人が名誉ある称号を受けられました。



工業界を代表する発明家

故加藤 興五郎氏

(昭和32年12月推挙)

理学博士。300余の特許を獲得。昭和8年、フェライト製コア、磁石およびアルミナの三大発明はわが国の工業界に画期的な発展をもたらした。昭和32年(1957)、85歳で軽井沢に自費で研修所を開き、35年には敷地を取得して創造科学教育研究所を創設。若き科学者の育成に努めた。昭和17年正三位勲二等、昭和27年藍綬褒章を受章、昭和32年文化功労章を受章。昭和42年(1967)8月13日逝去。



万平ホテルの創業者

故佐藤 万平氏

(昭和33年3月推挙)

明治27年、軽井沢町で最初の洋式ホテル(万平ホテル)を創立。海外ホテル業視察研究の成果を発揮し、わが国のホテル業界の発展と、当町の保健休養地としての発展に貢献する。数多くの公共事業に尽力、昭和18年紺綬褒章を受章。昭和33年(1958)1月25日逝去。



保温折衷苗代の考案者

故荻原 豊次氏

(昭和38年6月推挙)

永年にわたる農業改良の研究により、保温折衷苗代を考案、高冷地における水稻栽培の画期的進歩に貢献。昭和27年藍綬褒章を受章、昭和28年農林大臣表彰、その他農業改良技術の功績により幾多の表彰を受ける。昭和40年勲五等双光旭日章を受章。昭和53年(1978)2月10日逝去。



自然保護と観光振興に尽力

故星野 嘉助氏

(平成元年9月推挙)

星野温泉を経営する傍ら、日本野鳥の会に加入し、野鳥の研究、野鳥愛護思想の普及と自然保護に尽力する。昭和30年、軽井沢観光協会の設立とともに会長に就任、誘客運動に努め、観光事業の振興と地域の経済発展に貢献。昭和51年勲六等単光旭日章を受章。昭和57年(1982)12月1日逝去。



軽井沢夏期大学を支えた功労者

故市村 きよじ氏

(平成元年9月推挙)

夫、今朝蔵氏とともに、戦時中中断した軽井沢夏期大学の再開に奔走。昭和24年の再開にこぎつけ、今日の基礎を築く。中学校新築や図書館の建設に多額の私財を寄付するなど、当町の教育文化施設の強化に尽力する。昭和51年紺綬褒章を受章。平成6年(1994)11月28日逝去。



歴史文化の保護に功績

故水沢 邦嵩氏

(平成元年9月推挙)

昭和27年、公選制の教育委員会発足と同時に委員に就任、教育行政の進展に貢献。昭和41年当町助役に選任。その後、文化財審議委員会をはじめ多くの行政委員を歴任し、当町の伝統ある歴史文化を内外に広く普及。昭和52年勲五等瑞宝章を受章。平成13年(2001)5月6日逝去。



町政進展に貢献

故佐藤 正人氏

(平成3年3月推挙)

昭和47年、軽井沢町長に就任し、5期18年、町政進展のために貢献する。昭和54年北佐久郡町村会長、昭和60年長野県町村会副会長に就任。数多くの役員、審議会委員を歴任し、広域にわたる地方自治振興に尽力する。平成2年正六位勲四等瑞宝章を受章。平成2年(1990)12月23日逝去。



音楽文化の振興に寄与

故大賀 典雄氏

(平成18年6月推挙)

ソニー㈱の名誉会長、相談役を務め、東京フィルハーモニー交響楽団会長兼理事長などを歴任。軽井沢町の音楽文化振興のため、私財を投じて軽井沢大賀ホールを建設、平成16年12月町に寄贈。軽井沢少年少女合唱団・軽井沢ジュニアオーケストラ(現在の軽井沢ファミリーオーケストラ)の創設等音楽文化の振興に貢献。昭和63年藍綬褒章・平成13年勲一等瑞宝章・平成17年紺綬褒章を受章。平成23年(2011)4月23日逝去。